令和４年度自己評価結果公表シート　　玉川学園幼稚園

１.本園の教育目標

Ⅰ.子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

Ⅱ.よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

２.今年度の重点目標

Ⅰ　感染症予防のために十分な対策を講じる
Ⅱ　感染症対策と保育の充実の両立を図る
Ⅲ　週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する

３．重点目標の取組状況

項　目	取組状況と評価
感染症予防のために十分な対策を講じる	① 取組状況 今年度もオミクロン株の流行は収まらず、特に１学期は学級閉鎖による感染拡大防止に努めた。２学期はやや落ち着きを見せたものの、３学期はインフルエンザの流行が始まり、拡大防止のため学級閉鎖を行った。基本的な感染対策として、園内の消毒や園児の体温測定やマスク着用、保育室等の２方向換気を徹底し、各種行事も分散形式で実施した。緊急事態宣言等が発出されることがなくなり、感染対策は主に各現場に委ねられたが、保護者に本園の感染対策について説明を行いつつ協力を求めていった。 ② 保護者アンケートの結果 「コロナ禍での園運営について」という設問に「大いに信頼できる」「概ね信頼できる」の合計が８９.１％であり、その時々の状況に応じた対応であったが、保護者の理解が概ね得られているといえる。 ③ 教員の自己評価の結果 自己評価では、感染予防に対する個々の教員の意識は高いと言える。コロナ禍が始まってから、基本的な感染対策を継続して行っており、これが浸透して定着している。

感染症対策と保育の充実の両立を図る	① 取組状況 感染対策と教育活動の両立は、コロナ禍が始まって以来の課題である。日々の保育については、本園の教育方針である「自然を題材にした表現の保育」を継続して実践した。今年度は、緊急事態宣言等が発出されなくなった分、各種行事を中止することなく、分散形式ではあっても実施するように努めた。子どもたちにとっての有意義な教育機会を提供するとともに、参観日等を通して保護者に子どもの育ちを理解していただくことに努めた。 ② 保護者アンケートの結果 「コロナ禍での教育成果」について「大いに満足」と「概ね満足」の合計が９４.１％であり、昨年度より向上した。 ③ 教員の自己評価の結果 今年度も様々な制限を受けながらの日々の保育や行事運営であったが、昨年度よりも保育の充実が図れたとの自己評価になった。
週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する	① 取組状況 保育計画を立案して保育を進めることは保育現場において当然のことであるが、大切なことはその後の評価と改善である。今年度も、保育内容の充実のために職員全員が意識して取り組んだ。特に、本園の教育方針に基づき保育を進める点で、必要なことである。 ② 教員の自己評価の結果 PDCA サイクルが十分に機能したという評価には至っていないが、日々の保育の評価や改善に意識的に取り組んでいる。

４．学校関係者の評価

玉川学園幼稚園の運営については信頼がおけるものである。コロナ禍おける対応も概ね妥当であるが、参観等の機会が制限され、幼稚園と保護者や地域あるいは保護者同士の交流が十分にできなかったことは残念であった。近年、ジェンダーに関する意識が高まってきているので、幼稚園現場においても様々な声を拾いつつ一定の配慮が必要になってきているのではないか。昨年も具申されていたが、デジタル化が進む昨今であるので、幼稚園と保護者を結ぶ情報ツールなどを取り入れて改善を進めてもらいたい。

５．財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。